

フライトシミュレーターを導入

金沢 中部地区の大学で初

野々市町の金沢工大は、飛行機の操縦席を模したフライトシミュレーターを、中部地区の大学としては初めて導入した。学生は、自身が設計した制御プログラムで飛行体験を行い、設計技術

の問題点などを確認でき、この機器は、学生が組み立てたプログラムを試すために導入し、エンジニアを目指す工学部航空システム工学科の三年生が、航空工学演習の授業

で使う。二人座席で細かい計器も備わり、シミュレーターの前方画面には空撮し

た画像が映り、操縦と連動。プログラムの出来によっては、うまく離陸できなかつたり機体の振動が大きくなったりする。

同大の片柳亮二教授は「学生は臨場感を持って学習できるのでは」と期待している。

(池田悌一)



再現されたコックピットで、自身の設計技術を試せる。野々市町の金沢工大で